

第2回 みどりのまちづくり賞

OSAKA LANDSCAPE AWARD

大阪ランドスケープ賞

作品集

主 催

大 阪 府

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

大阪府では、美しく季節感のあるみどりの中で、人と人、人と自然のつながりが生まれ、さわやかな風を感じる快適なまち「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指しています。

この目標を実現するためには、大阪で活躍されている府民の皆様や企業の皆様と、行政とが一体となって取り組む必要があります。大阪府では、住宅や企業敷地などの民有地と、道路などの公共施設が一体となって美しい緑化がなされると、相乗的により美しく快適なまちづくりができることに着目しています。このようなセミパブリック空間を多く生み出し、みどりで魅力的にしていくこと、さらにそれらを実現する過程をとおして多くの人々がつながり、笑顔になることが大切だと考えています。

この賞は、みどりのまちづくりに貢献する「まちが美しくなるみどりづくり」「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方々を表彰するものです。

総 評



審査委員長
増田 昇

2年目を迎えた本年は、審査対象としたデザイン部門は24件、マネジメント部門は16件で、提出された書類による1次審査によって、前者は12件、後者は7件を現地審査対象の物件として選出した。デザイン部門の2次審査対象物件は、大学や高校などの教育施設、美術館、オフィスビル、複合開発や集合住宅地区から個人邸まで多様性に富み、施設の種類にかかわらずランドスケープの重要性が認識されているといえる。特に、複合開発や集合住宅地区の開発ではランドスケープの充実が重要な戦略となりつつある。

一方、集合住宅地区ではゲーティッドコミュニティが多くみられるが、充実したランドスケープが地域に開放されないといったことが課題かもしれない。また、ビオトープの創出に取り組まれる事例も多くなりつつあるが、地域の気候・風土を背景とした自然への理解が不足しているものもあり、更なる技術開発が求められる。マネジメント部門の7件はいずれも市民の方々が長年に渡り活動を継続され、地域のランドスケープの向上に大きく貢献している。一方、1年草の花卉を中心に展開されているケースが多く、多大な労力があるといった課題も見られる。低木などの木本系や宿根草と併用することによって労力の軽減とみどりのストックの形成が図れるであろう。

本賞も2年目を迎え、愛称を「大阪ランドスケープ賞」としたことや優劣を設けずに優良な物件をその特徴によって知事賞、花博協会賞、CLA関西支部賞に変更するなど徐々に改善を加えながら本賞の普及に努めている。自然との共生を基盤として人々が喜びと誇りを持って暮し続けるためには、地域の個性を表現し、豊かで美しいランドスケープの創造は非常に重要である。この賞が大阪のランドスケープの向上に大きく貢献できるように発展、定着していくことを期待したい。

審査委員 所感

みどりがまちを彩り、景観的にも環境的にも優れたまちづくりを目指そうという本賞の理念は広く浸透してきているように思います。こうした効果もあって、デザイン部門では多様な施設での展開が見られ、様々な場所にふんだんに優れた緑化を取り入れる積極的な取り組みが増えてきたように感じます。

「みどりのまちづくり」という視点からすれば、この動きをさらに発展させて、ある施設の緑化がまちを彩るだけでなく、開かれたみどりが施設自体の魅力を高めつつ、まちと繋がり、そしてまちを豊かにしていくという「まちをデザインする」という考えをもった事例が増えていくことが望まれます。デザイン部門では、開かれたみどり空間の配置と周辺のまちとの関わりや人の流れを考えたり、マネジメント部門では、まちの顔となる場所の魅力を高めながら地域コミュニティを活性化させ、多様な担い手の参加につながる工夫を取り入れるなど、まちを意識した取り組みへとつながっていくことを期待しています。

審査委員 嘉名光市

パークシティ南千里丘

所在地: 摂津市南千里丘

事業者 三井不動産レジデンシャル株式会社
設計者 鳳コンサルタント株式会社 環境デザイン研究所
施行者 株式会社 熊谷組

パークシティ南千里丘は、阪急摂津市駅前の再開発エリアの一角を占める集合住宅です。環境配慮型の新しい街づくりにおける風景のあり方としてかつての千里丘陵一帯に広がっていた「里山」をモチーフに、人々が日々の暮らしの中で豊かな緑や四季の移ろいを体感できる庭空間を「里庭」と名付け、それらをちりばめることで全体として魅力あるまちの風景の創出を試みました。敷地内には、3種類の桜と幾何学的なアースワークの[花の森]、犬島産大割

石による風格のあるアプローチの[紅葉の庭]、起伏を持たせた地形とストーンサークルが特徴的な[遊びの庭]、四季折々に多様な姿を見せる[雑木のみち]、水と風が自然の気配を映し出す鑑賞と寛ぎの[水の庭]、竹と石による枯山水の[竹の庭]、竹林のライトアップが印象的な[光のみち]、菜園と遊びの広場を設けた[空の里庭]の8つの庭を、「里庭八景」と名付けて配しています。



講評

本物件は、阪急京都線の新駅「摂津市駅」に面する環境配慮型の再開発エリアの先行整備の一角を占める集合住宅地区のランドスケープである。環境配慮という地区全体の新しいコンセプトに呼応したランドスケープのあり方が追及されており、里庭八景と名付けられた8つの庭から構成されている。駅に面して「花の森」とそれに続く「雑木のみち」、地区の幹線街路に面して「紅葉の森」と「遊びの森」が配され、豊かな高木とアースワークや石庭から構成されるランドスケープは、地区を象徴する魅力ある街並みの形成、暮らしと環境との関わり合いの表出に大きく寄与している。一方、内部の空間にはロビーに面した滝と水面のある「水の庭」、ラウンジに面した枯山水の「竹の庭」、住棟をつなぐ通り庭としての「光のみち」があり、光と水、風など、移ろいのある自然の気配を映し出し、ロビーとラウンジの雰囲気や居心地に大きく寄与している。立体駐車場屋上の遊具のある人工芝の広場と菜園は、キッチンガーデンとしてのクラブ活動や各種のイベントを通じたコミュニティ形成が目指されており、幅広い世代が触れ合うことのできるコモングリーンとしての役割が大きい期待できる。

(審査委員長 増田 昇)

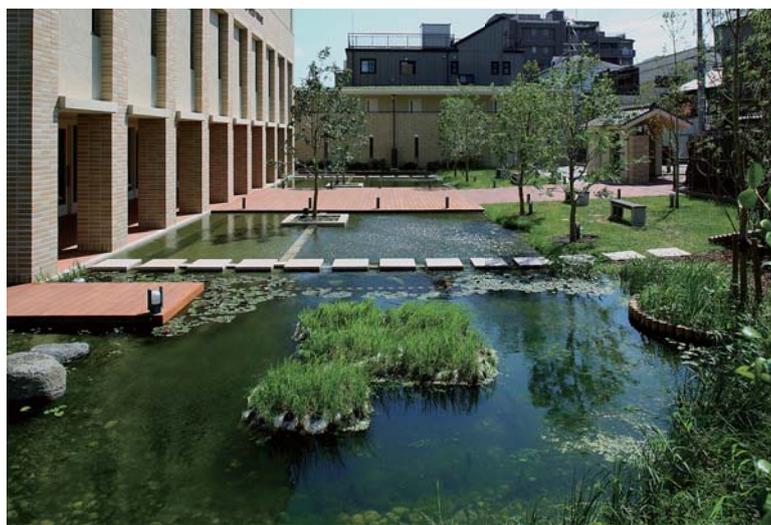
フール学院中学校・高等学校

所在地: 大阪市生野区勝山北

事業主 学校法人プール学院
設計者 株式会社 竹中工務店
株式会社 都市環境ランドスケープ
施行者 株式会社 竹中工務店

エコロジー(環境)と共にエモーション(感性)にも訴えるエコ・エモスクールです。水の流れる校舎を教材として環境を学び、未来を担う子供たちの感性を育て、トータルな環境創造を目指す"五感を通じて自然を学習する学校"です。井戸を起点にビオトープからのせせらぎが校舎を横断します。生徒は毎朝、水盤に架かる橋を渡って登校し、せせらぎに沿って教室へと向かいます。水の変化、音や光のゆらぎ、風のそよぎ等が五感を刺激し、自然の恵みを体感し感

性を育てます。緑地は、シースルーのフェンスを通して地域の人も同時に楽しめます。ビオトープを中心に地域の生態系ネットワークのコアとしても寄与する計画です。屋根に降った雨水は流れに利用し、井戸と合わせて水の節約に役立てます。オーバーフローした水は貯留槽に貯め、外構や屋上の灌水に利用します。貯留槽はクールホットチューブの熱交換にも利用し、空調エネルギーの消費削減にも役立てます。



講評

既成市街地や建築空間に、ランドスケープデザインやマネジメントの心と技を加えることで、地域の環境をいかに豊かに育んでいくか。今回寄せられた応募施設・活動の数々にはさまざまな試みが見られた。それぞれの取り組みの根幹に、生き物としての緑に対する感性が宿っているかどうか、地に足をつけて将来を見つめているかどうか、評価のポイントの一つとなった。プール学院中学校・高等学校は、伝統ある建学の精神や教育理念と、建築空間とランドスケープデザインが調和し響き合う清々しい環境を、市街地の中に生み出している。校内を巡るせせらぎは、多様な命を涵養するビオトープにつながり、水盤へと広がり、校舎を横断し滝となってテラスに注ぎ、安らぎを与えている。水盤に架かる橋を渡って登下校する生徒たちは、水や土、光や風の大切さ、季節の変化、命のつながりと尊敬を、日々の生活の中で自然に感受し学びとることができる。竣工時から4年の時を重ね、適度に手入れされたビオトープの植生にも安定感がある。生き物調査等への生徒の参加の機会も増えるとなおよい。地域にとっても貴重な環境資源であり、大切に育て活かして欲しい。

(審査委員 弘本由香里)

ランドスケープデザイン部門 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部長賞

田島大阪ビル

所在地: 大阪市西区京町堀

事業主 田島ルーフィング株式会社
設計者 株式会社 日建設計
施行者 株式会社 竹中工務店

敷地となる京町堀は大阪的な情緒を感じる一方、電柱が多く緑が足りない場所です。そこで、この建物は街並みに溶け込みながらも、この地域をより魅力ある地に誘導すべく、緑多き建物とし、近くの公園の緑につなげようとなりました。屋外から眺望が期待できない場合、緑化庇により景色を自ら創出し、それが緑溢れる街へ寄与する計画となりました。外部バルコニーを積極的に緑化し、大きな高木を街角に植えて、街中でも自然を感じられる環境建築を目指しました。コンクリートという素材感を界限性のある街に馴染ませるため、打ち放しの外壁は細かな凹凸に打つことで微妙な陰影が生まれ、太陽高度や天候により親しみのある表情をつくりだします。

講評

大阪市京町堀の雑居ビルやしもた屋などが密集する一角、突然現れる緑に覆われた建物にまず、目を奪われる。建物の対角線方向をガラス面にし、平面形空間に広がりを感じさせる開放感のある設計で、各階の庇には緑を地植している。建物内に入ると外壁から垂れ下がるつる性植物と開放感あるデッキに植えられた植物が各階の室内からの眺めを快適にしている。すなわち緑の向こうに街並みが見えると云った心地よい空間を演出し、眺望が望めない景色も自らが造り出しているのである。また建物の外部に緑を取り入れることで、電柱が林立し、決して美的とはいえない街の景観を潤いあるものになっている。以上のことはランドスケープの技術・アイデア・デザインに優れ評価に値する。また建物中央の階段は外部からの木漏れ日が交錯し光溢れる空間となり、壁に切り取られた緑を通して街を感じることができる。屋上庭園にも多種多様な草花が植えられ省エネにも配慮があり、ビル全体が企業のショールーム的役目も十分果たしている。しかしなにより素晴らしいのは、この建物が街並みに自然に溶け込みながらもこの地域をより魅力ある地に誘導すべく積極的に活動している点である。また、敷地の角には四季にいろどりと、存在感がある高木(さくら等)を植栽することで、都心でも自然を感じられる環境型景観建築を目指したことは高く評価される。

(審査委員 二見恵美子)



中之町フラワーウェーブ

所在地:堺市堺区中之町西

私達は、堺市中之町公園を活動場所として、「美しい花と緑あふれる公園」「人が憩い・集う花の公園」づくりに取り組んでいるボランティアグループです。市の「花のボランティア」に参加し配布して頂いた花苗に、自分達で育てた沢山の苗に花木や宿根草、球根をプラスして花や色の組合せを考えて、地域の皆さんに受け入れられ、喜んでいただける「公園づくり」を目指して、花壇のデザインや植え替えのローテーション等をみんなで勉強し技術の向上に努め

ています。花木が少ないので桜や枝垂れ桜を、紅葉する木が無かったので世界三大紅葉の一つであるすずらんの木等を行政に働きかけて植栽していただきました。平成13年から始めた活動も11年目に入り、今では老若男女多くの方が来園利用されています。最近では、毎日のように来園される方が増え、パーゴラの下では楽しそうな声が聞こえます。皆さんの喜んでいただける声を聞けるのが、何よりも嬉しいです。



講評

公園でのコミュニティ活動を始めてから10年、年毎に活動が広がり、公園入口の壁、遊具も塗り変えられ、存在感を新たに、美しく刈られた芝生で幼稚園児の走り回る声、安心して見守る先生の視線、小学生が広場で遊び、周囲のフェンス際には、緩やかな曲線のレンガで縁取られた花壇に宿根草と多年草が配植され、公園樹木と調和し、公園が輝きを取り戻していることを実感しました。まずゴミが落ちていない、掃き清められた公園は、訪れる人をもてなし、まちづくりと公園利用の在り方を教えてくれています。大阪府知事賞の選考趣旨は、人々の都市緑化に関する意識の高揚や普及を図り、「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現に寄与しているもの。そして、地域コミュニティ活性化への貢献度または継続性に特に優れ、都市緑化の啓発、緑化に関する地域・市民活動に優れた案件で、中之町フラワーウェーブのマネジメント活動とその姿に、審査員全員が大阪府知事賞に最も相応しい公園であると高く評価しました。第一回CLA関西支部長賞受賞コメントに「もてなしの花作りの心」を是非とも子供達に受けついで頂きたいと願っています。と書きましたが、第二回での現地審査でそのことを強く感じる事が出来ました。(審査委員 福原成雄)

赤坂アジサイロード

所在地:堺市南区赤坂台

10年前、犬の糞だらけだった緑道を綺麗にしようと始めた運動です。木陰の多い緑道沿いにはアジサイが適していると考え、私の家のアジサイを挿し芽して花苗を作り、植え付け始めたのが平成14年でした。その後、堺市公園協会、大阪府蜻蛉池公園より助成を受け、また園芸店で売れ残った花苗を安価で購入し、現在20種、約300株になりました。

特に自慢はアメリカアジサイ「アナベル」が、親株から取り木して

70株になり、白いてまり咲きがかわいく咲いています。

緑道近くの小・中学校に登下校する生徒や、最寄り駅へ通勤する人は数多く見られます。アジサイの開花時期には、カメラを持って撮影に来る人が今年は特に多く見られました。一緒に水遣りを手伝ってくれていた仲間も高齢化し、私たち夫婦だけになりましたが、来年の開花を楽しみに頑張っていきたいと思えます。

講評

小学校と中学校に隣接する犬の糞だらけとなっていた緑道を綺麗にしたいと約10年前から始められた活動です。植栽環境に合わせ日陰に適したアジサイを植えようと、自宅の株から苗を作り植えることからスタート。今ではアジサイ20種約300株が植えられ管理されています。植栽地はレンガや瓦などタイプの違う土留めで変化をつけ、所々に花壇を設けてポイントをつくり、花の写真や種名の解説なども掲示して、見る人を楽しませる様々な工夫もされています。活動と一緒にされていた方が亡くなられ、前より活動が絞られているようですが、この賞をきっかけに協力者が現れてくれることを期待します。

一年草による花壇づくりの活動が多い中、赤坂アジサイロードは低木の花木や宿根草を用いることによって、比較的手間が少なく美しい空間づくりができることを教えてくれます。応募されている中でも範囲が広すぎて管理が行き届いていないところがいくらか見られましたが、低木や地被、宿根草なども活用されることをお勧めいたします。

デザイン部門において感想ですが、折角良いデザインをされていても、施工上や管理上の問題で、木が枯れたり、水が止まったりして、デザインが損なわれてしまっている例がいくつかありました。施工からあとの管理までしっかり配慮することが望まれます。

(審査委員 當内 匡)



ランドスケープマネジメント部門 奨励賞

茨木交流倶楽部 花咲かせ隊

所在地:茨木市見付山



花咲かせ隊は、茨木市が主催した中心市街地ワークショップから生まれた自主活動グループです。「花と緑いっぱいのもちづくり」が広がるよう、まち中の花を咲かせてみなさんの気持ちを楽しめることを目的として活動しています。

まちづくりの第一歩として、まちを元気にするために、本町お客様駐車場、阪急本通り商店街東側府道交差点の花壇に花を咲かせています。「利用者や商業者の方々の気持ちが元気になれば!」「駐輪マナーの向上につながれば!」と想いを込めて、今後も活動を継続していきます。人の心が優しく、「ご苦労さん」の一言が励みになります。

講評

茨木交流倶楽部「花咲かせ隊」は、茨木市の中心市街地にある本町商店街のお客様駐輪場と商店街東側の交差点で清掃活動や花壇づくりを行っており、本年で10年目を迎える。駐輪場のマナーの向上とともに商店街や買い物の方々の気持ちが元気になることを願って活動されている。活動仲間の交流が深まるばかりでなく、道行く人々とも花を通じた関わり合いが増えてきており、人々との交流がさらに発展することが期待される。今後取り組まれている種からの育苗への取り組みや花飾り技術の向上などに加え、ツタ類や低木の導入、宿根草の活用などによって植え替え手間の軽減とともに緑のストックの育成も一考されたい。また、市や商店街にちなんだテーマに沿ったデザイン展開も一興であろう。

(審査委員長 増田 昇)

花と緑の会いぶき

所在地:交野市天野が原



花と緑の会いぶきは、平成17年4月に交野市が主催した「花と緑のボランティア育成講座」がきっかけで発足しました。最初は27名だった会員も、7年を経過した現在は約40名に増え、月4～5回の活動日には毎回平均25名ほどの方が参加しています。

活動は、花と緑のボランティア育成講座で習得した技術を活かして種から花苗を育成し、駅前をはじめとした花壇4箇所に花の植え付けと育成管理をしています。提供されている温室を利用して育てた花苗は花壇の植え付けに使用し、余った花苗は市内の公共施設に配布して美しい景観づくりに役立てて頂いています。

講評

花と緑の会「いぶき」は、交野市が平成17年から5年計画で開催した「花と緑のボランティア育成講座」の修了生27名で発足し、今では40名からなる活動グループである。講座で習得した技術を活かして、河内磐船駅前の西側と東側、交野市駅前、イズミヤ前の4か所で花壇づくりを行っている。午前中は主に温室での育苗、その後は花壇での植え付けなどと月4～5回の活動と当番制で花壇の日常管理をしている。駅前や大型商業施設など多くの人が行きかう空間のランドスケープの向上に寄与している。花壇デザインに際しては、交野市のランドスケープの骨格を形成している生駒山系への眺望性を活かしたテーマ設定などに取り組み、交野市固有のランドスケープ形成に寄与することも一考されたい。

(審査委員長 増田 昇)

募集対象

大阪府内における、みどりの景観づくり及び活動を募集し、府民、団体、企業、公共あらゆる方面からの応募が対象。

応募部門

1. ランドスケープデザイン部門

- マンション、ビル、工場、住宅などの屋外空間で、建築物とともに周辺のまちなみと調和して美しい景観を形成しているもの。
- 図書館や公民館などの屋外空間や、街路、河川、公園などで、周辺のまちなみと調和して美しい景観を形成しているもの。
- 平成19年8月以降に整備または再整備が完了しており、平成23年8月以前に竣工しているもの。
- 事業主、設計者、施工者などが受賞対象。

2. ランドスケープマネジメント部門

- 地域や駅前の花壇づくり、企業の敷地や、街路、河川、公園などの公共施設における緑化活動など、まちなかのみどりを通じて地域を笑顔にしている活動。
- 活動を行っている方や、その活動に対する支援を行っている方が受賞の対象。
- 応募時点で、概ね2～3年以上継続して実施している活動。

応募数

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. ランドスケープデザイン部門 | 28件 |
| 2. ランドスケープマネジメント部門 | 16件 |



第一次審査



第二次審査(現地審査)

審査方法

賞の審査は、主催者が設置するみどりのまちづくり賞審査委員会により、応募書類による書類審査(第一次審査)、現地審査(第二次審査)により選考。

審査委員

審査委員長

増田 昇 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授)

審査委員

嘉名 光市 (大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 准教授)

当内 匡 ((株)庭樹園 代表取締役)

弘本 由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 特任研究員)

福原 成雄 (大阪芸術大学環境デザイン科 教授)

二見 恵美子(京大光華女子大学客員教授、ランドスケープアーキテクト)

スケジュール

募 集:平成23年 6月 1日(金)から 7月31日(火)

第一次審査:平成23年 8月27日(月)

第二次審査:平成23年 9月 5日(水)

平成23年 9月10日(月)

表 彰 式:平成23年10月 8日(祝・月)



表彰式



受賞者記念撮影

第1回 入賞作品

ランドスケープデザイン部門

大阪府知事賞



中之島公園(バラ園周辺部分)(大阪市)

大阪府都市緑化フェア実行委員会長賞



シャレール東豊中(メタセコイアのある緑地部分)(豊中市)

(財)国際花と緑の博覧会記念協会会長賞



千里竹の会(豊中市)

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会
関西支部長賞



ウェリス上本町ローレルタワーのランドスケープ(大阪市)

特別賞(審査委員長賞)



からぼり倶楽部 惣・長屋草屋根(大阪市)

(社)ランドスケープコンサルタンツ協会
関西支部長賞



中之町フラワージェブ(堺市)

大阪府都市緑化フェア実行委員会長賞



サンマーク大目(守口市)

大阪府知事賞



新川姫虫と花を守る会(高槻市)

大阪府都市緑化フェア実行委員会長賞



みんなで育てよう花いっぱい島本町(三島郡)

ランドスケープマネジメント部門

後 援

大阪都市公園協議会／公益社団法人日本都市計画学会関西支部
公益社団法人日本造園学会関西支部／一般社団法人日本造園修景協会阪奈和支部
一般社団法人日本造園建設業協会大阪府支部／一般社団法人日本造園組合連合会大阪府支部
阪神造園建設業協同組合／一般社団法人大阪造園業協会／社団法人大阪市造園業協会

OSAKA LANDSCAPE AWARD

大阪ランドスケープ賞 事務局

〒540-8570 大阪市中央区大手前二丁目一番二十二号
大阪府 都市整備部 公園課 計画グループ内
電話：06-6941-0351 FAX：06-6944-6796

